

第41回全国サケ・マス・魚卵大手荷受・荷主取引懇談会開催概要

- ・日時 令和元年8月7日(水) 15:00~18:30
- ・場所 京王プラザホテル札幌 2階 「エミネンス」
- ・出席者 来賓: 8名 荷受: 58社 97名 商社等: 23社 35名
仲卸: 2社 4名 生産者: 10組合 17名
関係団体等: 3団体 6名 荷主: 73社 102名 報道機関

I 開会

II 主催者挨拶 代表理事長 根田 俊昭

- ・ 漁業生産が落ち込んでいる中、我々の業界では高齢化社会の中で生産者の皆さんが一生懸命獲ってきた魚を思うように加工できなくなっている。
- ・ この厳しい状況の中、生産者、荷受様等と我々荷主と一緒にあって対策を考え、意見を持ち合いながら進んでいくことができると考えている。

III 来賓挨拶 中央魚類株式会社 代表取締役社長 伊藤 晴彦 様

- ・ 今期の秋サケ漁は前年比33%増と予想されており、親も卵も適正な価格で全国の市場により多く行き渡ることを期待している。
- ・ ただ、現状、親ガラ、魚卵の在庫が多い。今期は生出荷を主体に販売していきたいので、アニサキスの問題もあり消費者に丁寧に説明していくことが重要。

IV 来賓紹介

V 講演

1 演題 「水産加工振興方策について」

講演者 自民党水産総合調査会副会長・水産加工振興検討会座長
衆議院議員 武部 新 様

2 演題 「今年の秋サケ来遊見通しについて」

講演者 地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部
さけます・内水面水産試験場 研究主幹 畑山 誠 様

3 演題 「秋鮭を取り巻く流通環境について」

講演者 北海道漁業協同組合連合会 販売第二部 部長代理 江頭 崇 様

VI 全体討議

1 数の子・タラコ部門

① 数の子の部 (進行: ㈱岡田商店 岡田社長)

- 道内加工業者の廃業や北米のパッカーの減少が見られ、双方が儲かる仕組みを考えなければならない。
- これまでにない販売策、平月に売れるアイテムの開発等の検討が必要。

② タラコの部 (進行: 渋谷水産㈱ 渋谷社長)

- 原料・販売単価共に大きな変化がなく、価格競争が厳しくなっていると同時に、人件費等の高騰もあり、利益が出しづらくなっている。
- 高単価な商品を開発、販売する等、消費地と綿密に情報交換することが重要。

2 サケ・イクラ部門

① サケの部 (進行: 日本水産㈱ 檜垣課長)

- 秋サケの売場がなくなり、チリギンやロシアチャムもかなり出回った。
- 秋サケのマーケット奪還のためには、消費地のニーズに合った売れる相場形成が重要。特に生鮮の打ち出しが重要。

② イクラの部 (進行: 北海食品㈱ 佐久間社長)

- 同様に輸入物にマーケットを奪われたことから、消費地のニーズに合わせた適正な相場形成を行い、売場から無くならないようにしなければならない。
- 越年在庫については、できるだけ早期に消化するため、連携が必要。

VII 閉会